
**2012年3月期
第2四半期決算 及び 通期業績見通し
説明資料**

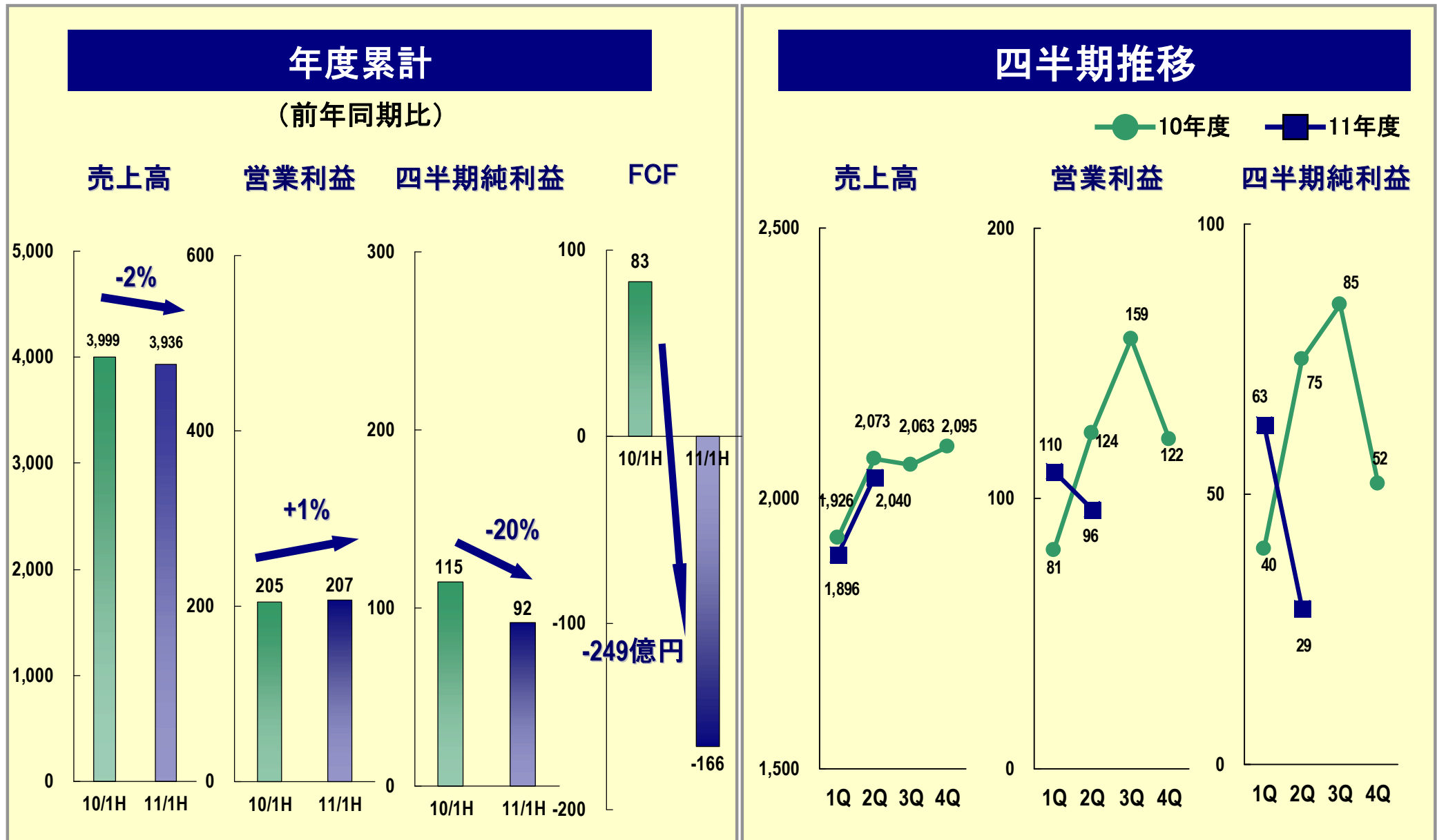
帝人株式会社

2011年11月1日

第2四半期決算概況

(1) 2012年3月期 第2四半期決算概況

(億円)



◆ 経営成績

(億円)	10年度 上期	11年度 上期	差異 金額
売上高	3,999	3,936	-63
営業利益	205	207	+1
<営業利益率>	5.1%	5.2%	-
営業外損益	-0	10	+10
経常利益	205	217	+12
特別損益	-13	-20	-6
税金等調整前 四半期純利益	192	197	+5
法人税等	69	94	+25
少数株主損益	8	12	+4
四半期純利益	115	92	-24
EPS(円)	11.74	9.33	-2.40
EBITDA *1	485	438	-47
設備投資 *2	117	129	+12
減価償却費	280	232	-48
研究開発費	153	152	-2
FCF	83	-166	-249

➤ 売上高、営業利益横ばい

・化成品：震災影響やエレクトロニクス関連
需要低迷により減収・減益

・高機能繊維・ポリエステル繊維：堅調

➤ 経常利益増：持分法投資損益改善

➤ 純利益減：税効果調整による
法人税等増加

◇ PL換算レート

	10年 上期	11年 上期
円 / 米ドル	91	82
円 / ユーロ	121	115
米ドル / ユーロ	1.33	1.40

*海外会社は12月決算

◆財政状態

(億円)	11年3月末	11年9月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	7,615	7,845	+230	+70
自己資本	2,842	2,901	+58	+16
有利子負債	2,674	2,880	+206	+34

D/Eレシオ	0.94	0.99	+0.05
自己資本比率	37.3%	37.0%	-0.3%

- 総資産増加:
 - ・在庫の増加
- 自己資本増加:
 - ・四半期純利益
 - ・有価証券評価差額金の減少
- 有利子負債増加
 - ・運転資金の増加

◆キャッシュ・フローの状況

(億円)	営業活動	投資活動	FCF	財務活動 他	現金及び 現金同等物 増減
11年度 9月期	16	-183	-166	145	-21
10年度 9月期	211	-128	83	-56	27

◇BS換算レート

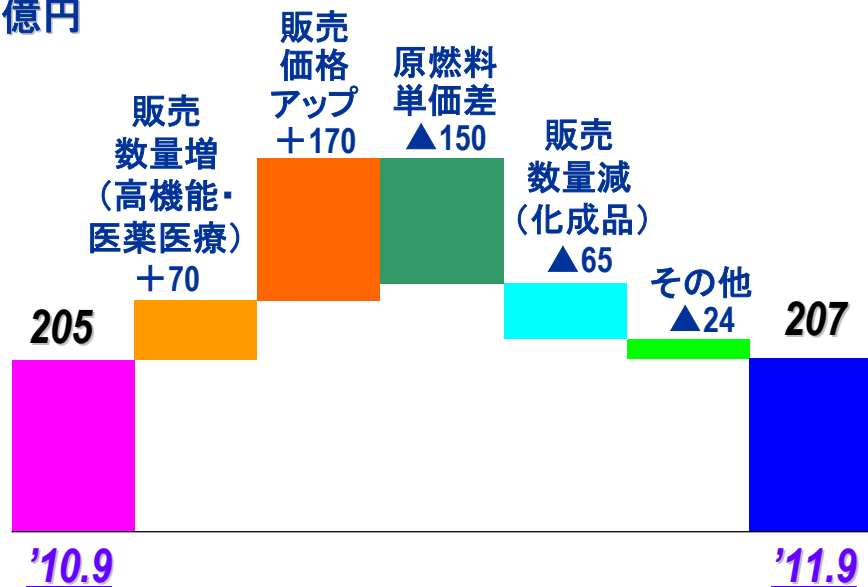
	10年 12月末	11年 6月末
円 / 米ドル	81	81
円/ユーロ	108	117
米ドル/ユーロ	1.32	1.45

*海外会社は12月決算

◆ 経営成績及び財政状態増減内訳

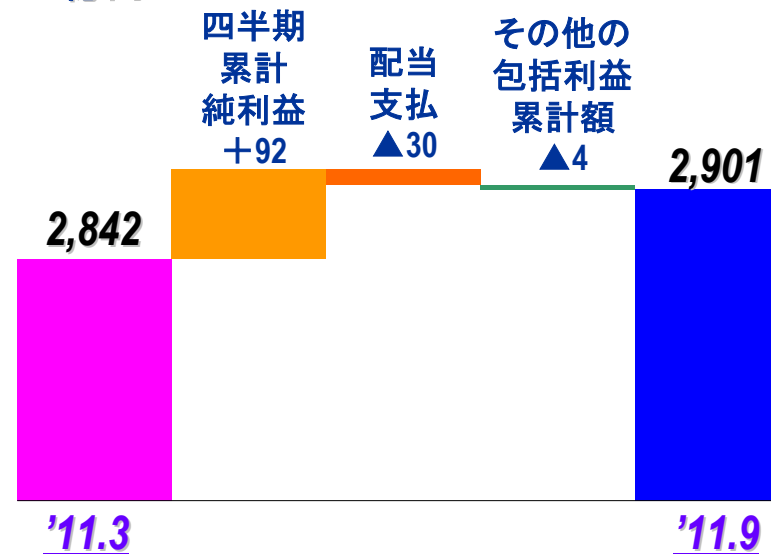
◇ 営業利益
+1億円

(億円)

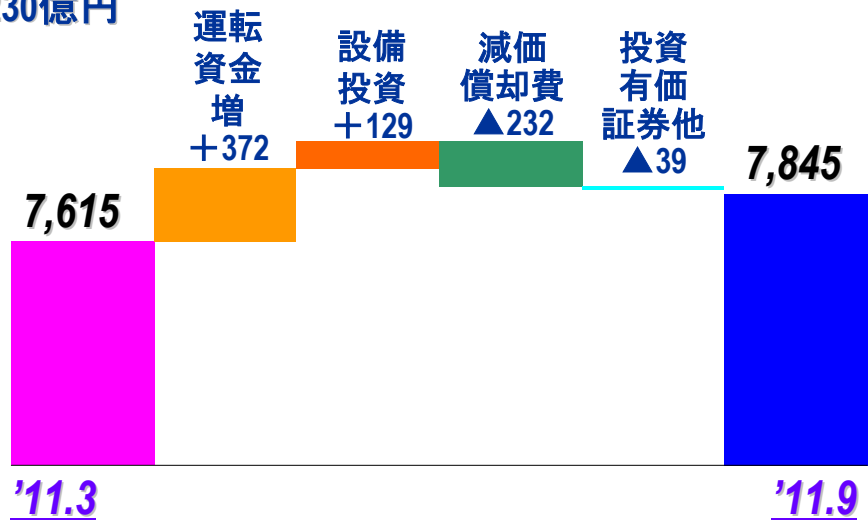


◇ 自己資本
+58億円

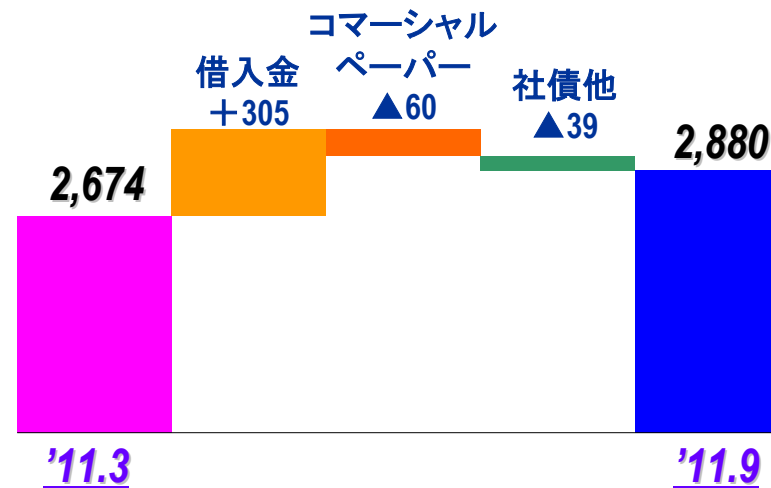
(億円)



◇ 総資産
+230億円



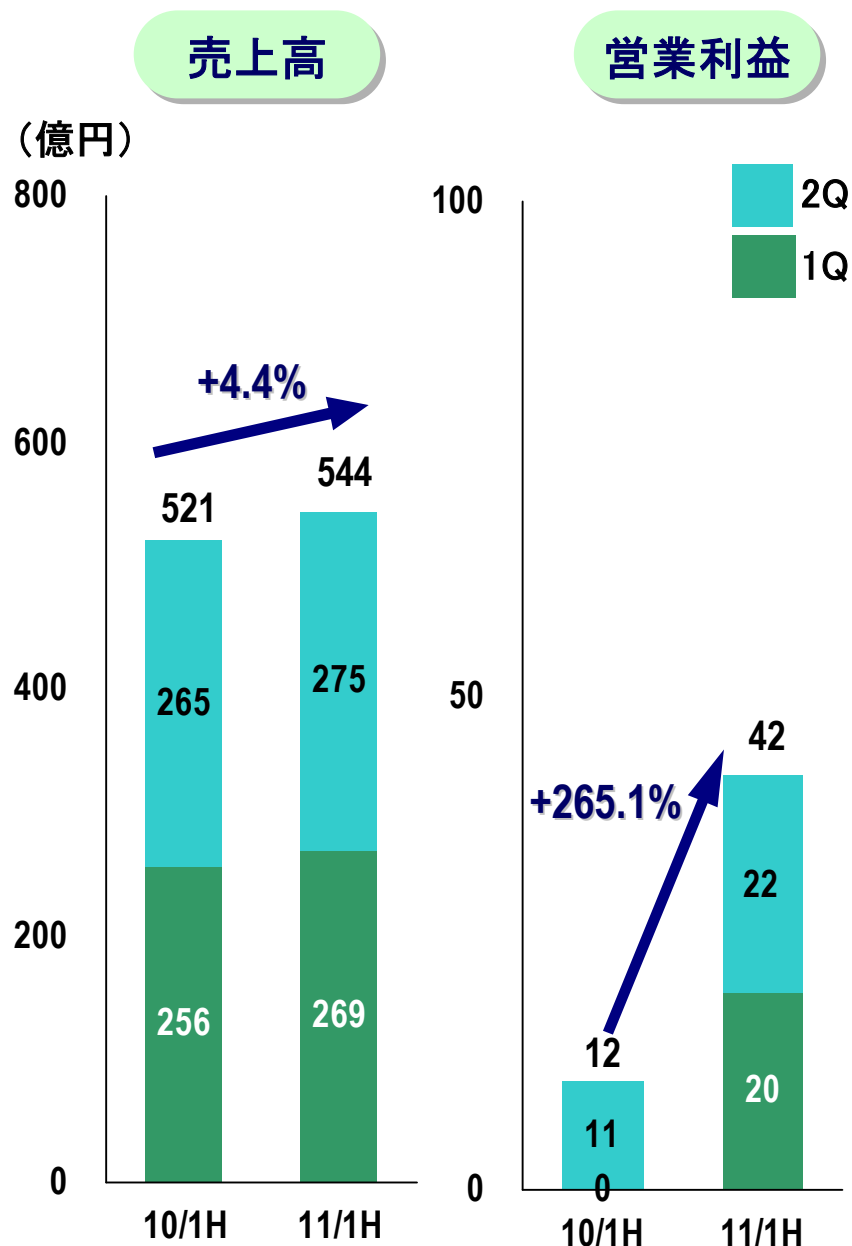
◇ 有利子負債
+206億円



(2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

(億円)	売上高				営業利益			
	10年度 上期	11年度 上期	差異	増減率	10年度 上期	11年度 上期	差異	増減率
高機能繊維	521	544	+23	+4.4%	12	42	+31	+265.1%
ポリエステル繊維	509	539	+31	+6.0%	-0	20	+20	-
化成品	1,108	930	-179	-16.1%	109	57	-52	-47.7%
医薬医療	665	680	+16	+2.4%	118	119	+1	+0.9%
流通・リテイル	1,022	1,054	+32	+3.1%	19	24	+4	+22.9%
計	3,825	3,747	-78	-2.0%	258	262	+4	+1.6%
その他	174	189	+15	+8.6%	9	11	+2	+21.0%
消去又は全社	-	-	-	-	-62	-67	-5	-
合計	3,999	3,936	-63	-1.6%	205	207	+1	+0.7%

① 高機能繊維事業: 増収、増益



(億円)	10/1H	11/1H	差異	増減率
売上高	521	544	+23	+4.4%
営業利益	12	42	+31	+265.1%

◆ 事業概況・実施アクション

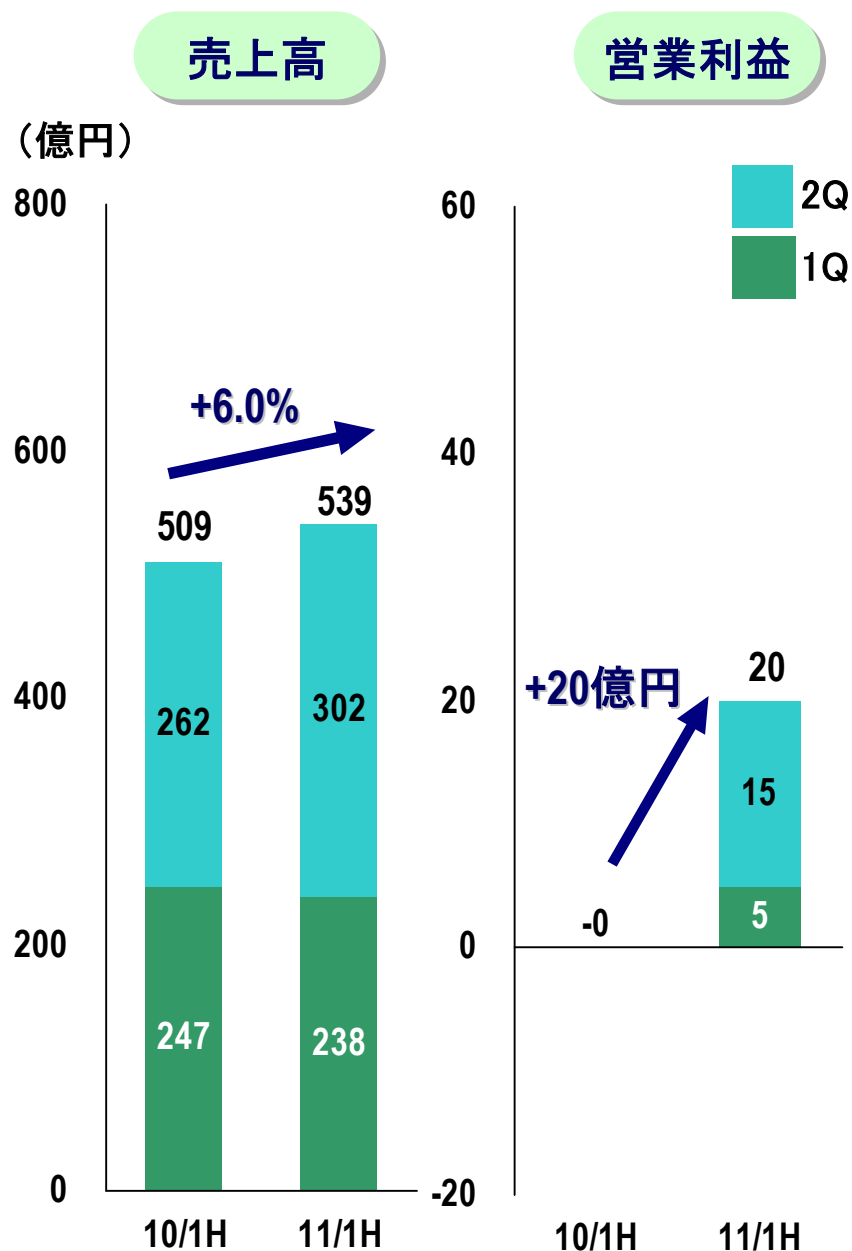
◇ アラミド繊維:

- パラアラミド繊維: 各分野において旺盛な需要
- メタアラミド繊維: 防護衣料で需要堅調
- 新規用途開発を推進中

◇ 炭素繊維・複合材料:

- 航空機用途は好調継続
- 自然エネルギー・土木関連の需要堅調
- 圧力容器は欧州経済減速により低迷
- アジアでコンパウンド、スポーツ・レジャー用途伸び悩み
- CFRP(炭素繊維複合材料)の自動車向け用途展開を推進

② ポリエステル繊維事業：増収、黒字化



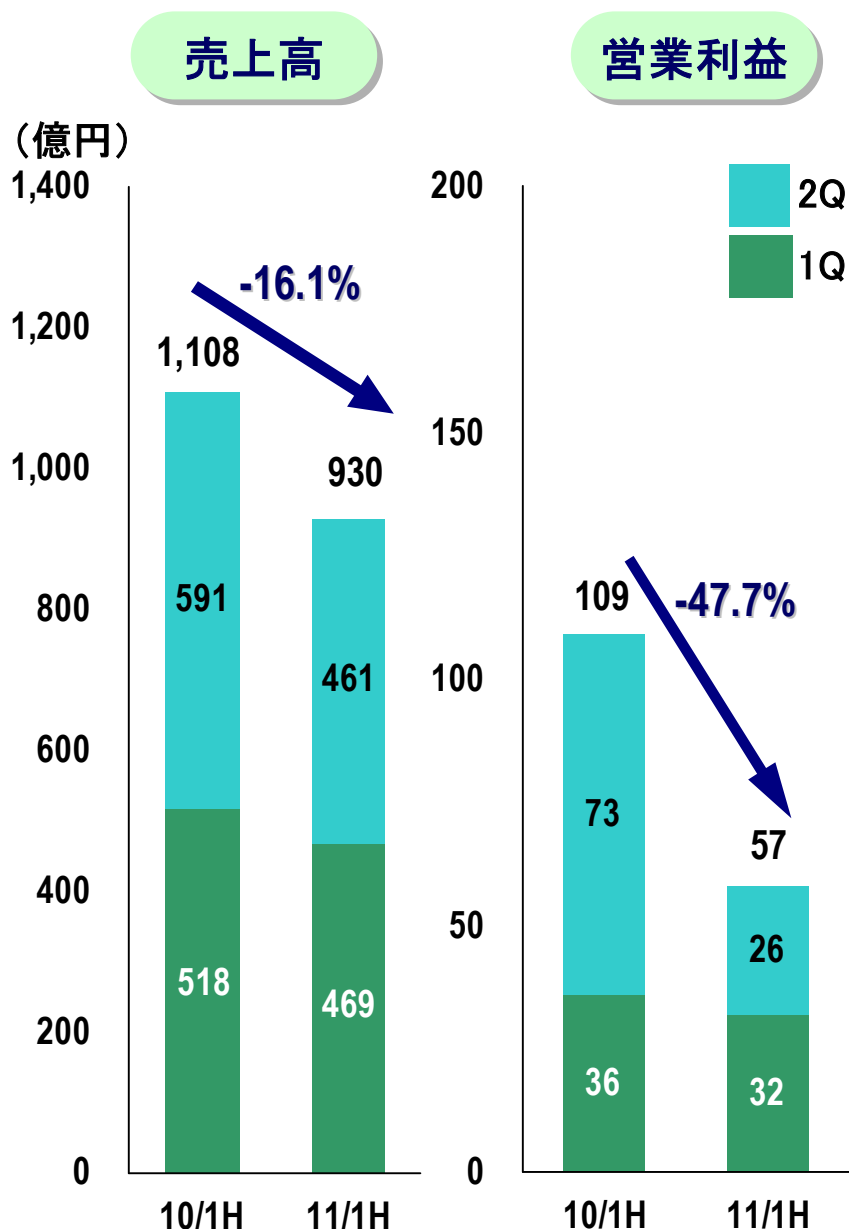
(億円)	10/1H	11/1H	差異	増減率
売上高	509	539	+31	+6.0%
営業利益	-0	20	+20	-

◆ 事業概況・実施アクション

◇ ポリエステル繊維：

- 海外生産移管により収益構造は着実に改善
- 震災による自動車用途の需要低迷
～夏場以降は急速に回復
- クールビズ、節電対策、土木・建築資材等の復興需要を取り込み

③ 化成品事業：減収、減益



(億円)	10/1H	11/1H	差異	増減率
売上高	1,108	930	-179	-16.1%
営業利益	109	57	-52	-47.7%

◆ 事業概況・実施アクション

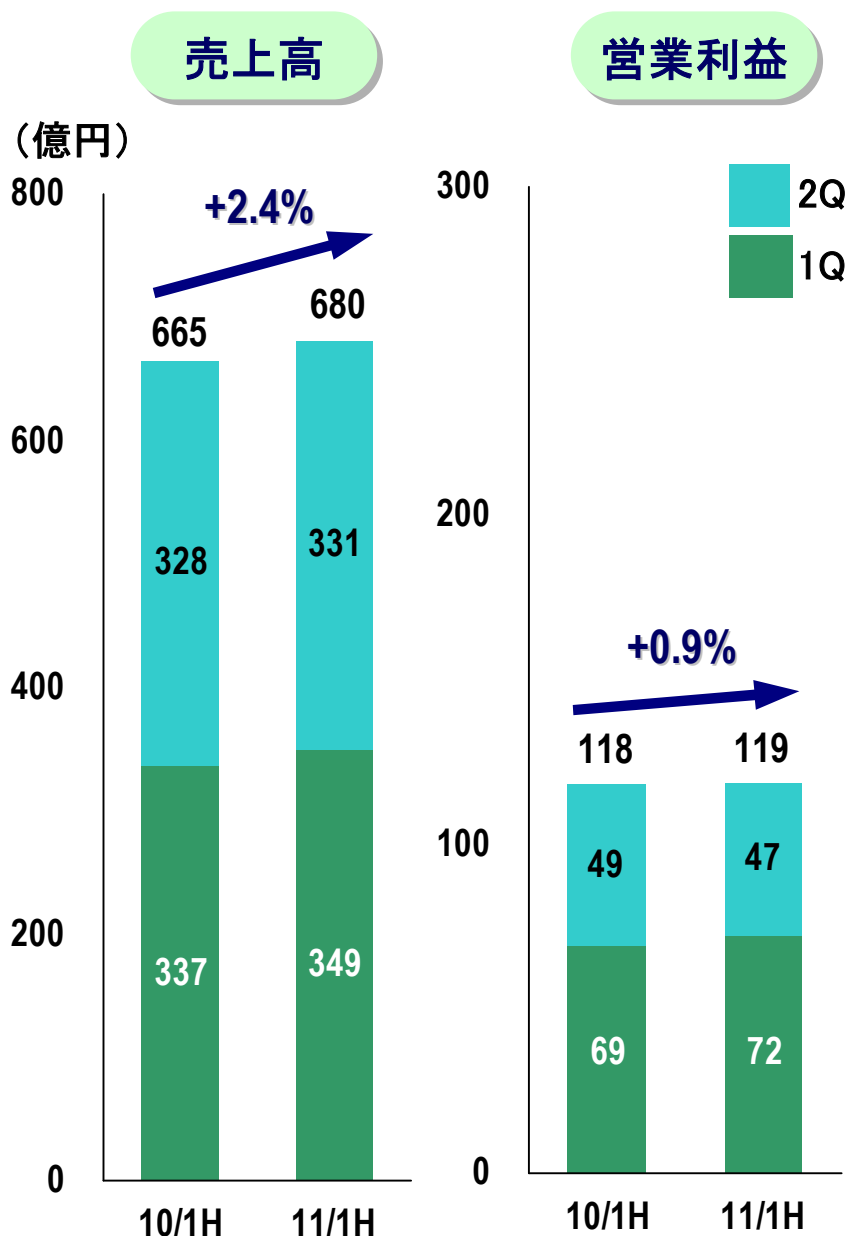
◇ 樹脂：

- PC樹脂：
 - ・震災影響および液晶テレビ・パソコン等の市場冷え込みにより販売量減
 - ・主原料価格高止まり継続
- 樹脂加工品：
 - ・位相差フィルム(3D映画鑑賞メガネ向け)低調

◇ フィルム：

- 上半期(1～6月)は主力のFPD・太陽電池向けが好調を持続
 - ～第2四半期末頃から軟化の兆候
- 震災により国内で一部工場生産停止
 - ～全面復旧完了(茨城3月末、宇都宮6月中旬)

④ 医薬医療事業：増収、収益横ばい



(億円)	10/1H	11/1H	差異	増減率
売上高	665	680	+16	+2.4%
営業利益	118	119	+1	+0.9%

◆ 事業概況・実施アクション

◇ 医薬品：

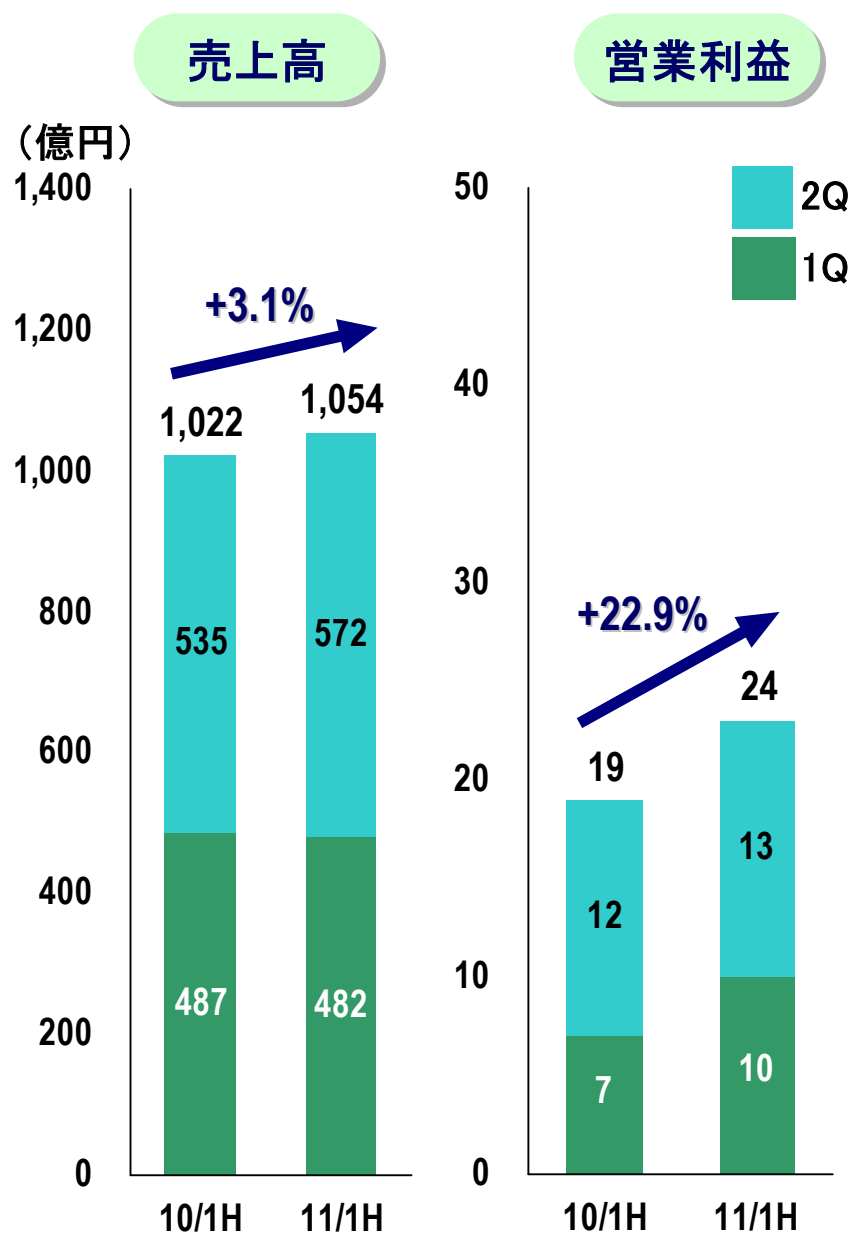
- 国内新薬は順調に拡大
 - ・高尿酸血症治療剤「フェブリク錠」
 - ・変形性膝関節症の疼痛緩和剤「サイビスクディスポ関節注2mL」
- 骨粗鬆症治療剤「ボナロン*」底堅く推移
- 海外では高尿酸血症治療剤が順調に拡大
 - ・韓国販売開始(7月)
 - ・メキシコ・中東・北アフリカ・インド・東南アジア等でも販売独占契約を順次締結

◇ 在宅医療：

- HOT：高水準のレンタル台数維持
- CPAP：順調にレンタル台数伸長
- 海外：レンタル拡大・収益基盤強化を推進

*ボナロン®/ Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標

⑤ 流通・リテイル事業：増収・増益



(億円)	10/1H	11/1H	差異	増減率
売上高	1,022	1,054	+32	+3.1%
営業利益	19	24	+4	+22.9%

◆ 事業概況・実施アクション

◇ 流通・リテイル：

● 衣料繊維

- ・主力のOEM事業にて、スポーツ衣料、生活衣料、紳士スーツの販売伸長
- ・生産効率化・集約化によるコスト削減

● 産業資材

- ・自動車関連資材
～震災影響で荷動き低迷も夏場以降に急回復
- ・重布、不織布、フィルター、土木、水産など堅調
- ・断熱フィルム；節電需要により伸長

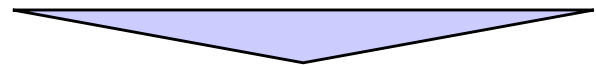
◆セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

		10年度実績			11年度実績		
		1Q	2Q	上期計	1Q	2Q	上期計
売上高	高機能繊維	256	265	521	269	275	544
	ポリエステル繊維	247	262	509	238	302	539
	化成品	518	591	1,108	469	461	930
	医薬医療	337	328	665	349	331	680
	流通・リテイル	487	535	1,022	482	572	1,054
	計	1,845	1,980	3,825	1,806	1,941	3,747
	その他	81	93	174	90	99	189
	合計	1,926	2,073	3,999	1,896	2,040	3,936
営業利益	高機能繊維	0	11	12	20	22	42
	ポリエステル繊維	0	-0	-0	5	15	20
	化成品	36	73	109	32	26	57
	医薬医療	69	49	118	72	47	119
	流通・リテイル	7	12	19	10	13	24
	計	113	146	258	139	123	262
	その他	-1	10	9	3	8	11
	消去又は全社	-31	-31	-62	-32	-35	-67
合計	81	124	205	110	96	207	

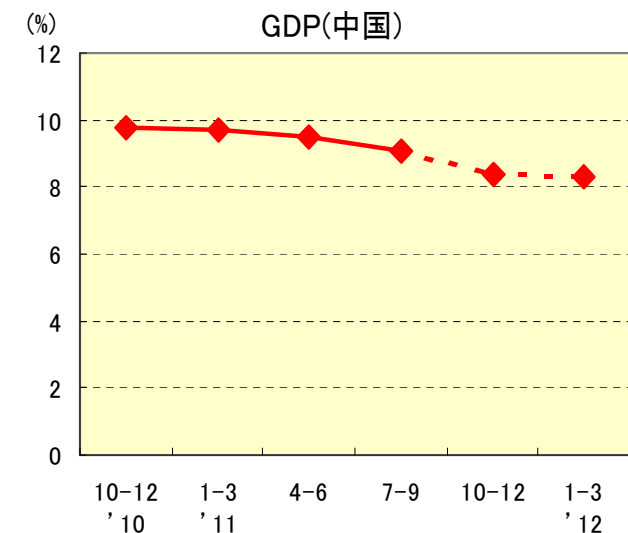
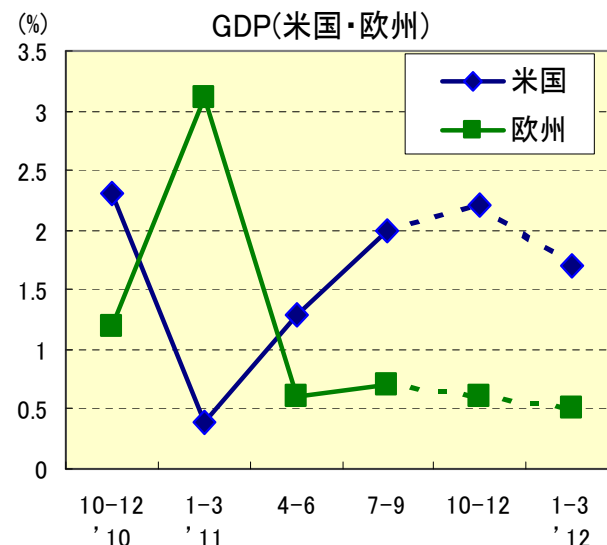
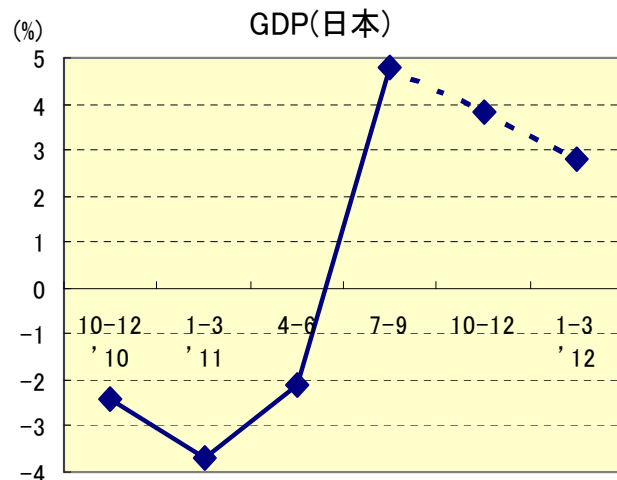
通期業績見通し

(1) 環境認識

- 欧州での財政問題に起因する景気の減速がグローバルに波及
- これまで景気の牽引役だった中国経済も金融引き締めにより成長鈍化
- 日本では震災から復興するも、歴史的な円高により輸出採算悪化

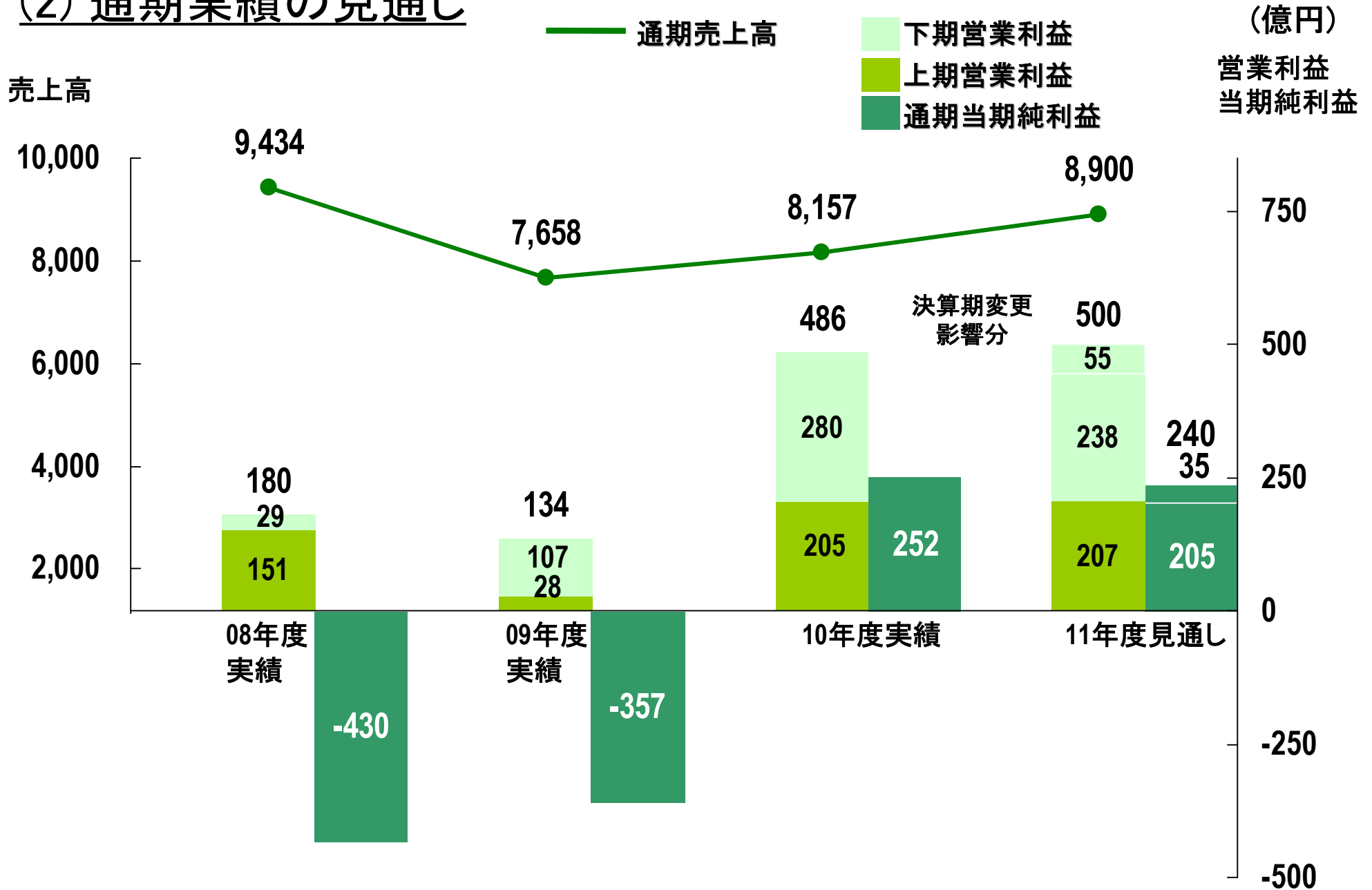


- **新薬の販売順調な医薬医療事業、需要旺盛なアラミド繊維事業は堅調**
- **液晶TV、パソコン、太陽電池等の需要低迷・在庫調整の長期化により化成品事業は下振れ**
- **タイの洪水によりポリエステル繊維事業子会社の操業停止中**



出展：日本総研、JCER等の予測に基づき当社推定

(2) 通期業績の見通し



(3) 通期業績見直しの概況

*前回見直しは2011年8月1日に公表

(億円)	10年度	11年度 今回見直し	差異	
			金額	%
売上高	8,157	8,900	+743	+9.1%
営業利益	486	500	+14	+3.0%
<営業利益率>	6.0%	5.6%	-	-0.3%
経常利益	503	500	-3	-0.7%
当期純利益	252	240	-12	-4.7%

11年度 前回見直し*	前回見直し との差異 (金額)
9,200	-300
610	-110
6.6%	-
610	-110
320	-80

設備投資	292	450	+158	+53.9%
減価償却費	564	550	-14	-2.5%
研究開発費	315	330	+15	+4.8%

450	0
550	0
330	0

■ 中間配当及び期末配当予想

*前回見直しより変更なし

中間配当	3.0円/株
期末配当	3.0円/株の見直し
年間配当	6.0円/株の見直し

■ 2011年度見直し前提

	前回見直し*	今回見直し
米ドル	81円	79円
ユーロ	115円	111円
原油(Dubai)	109米ドル/バレル	109米ドル/バレル

(4) タイ洪水被害の状況



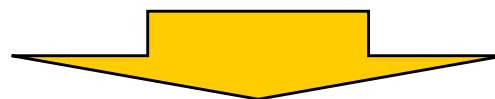
© 2011 Google -
地図データ©2011Tele Atlas

会社	略称	所在地	事業内容	状況
テイジン・コード (タイランド)社	TCT	アユタヤ県 ロジャナ工業団地	産業用伝動ベルトの 芯体コード製造販売	操業停止(10/8~)
テイジン(タイランド)社	TJT	アユタヤ県 バンパイン工業団地	ポリエステル長繊維・短繊維の製造販売	操業停止(10/12~)
テイジン・ポリエステル (タイランド)社	TPL	パトゥムタニ県 (自社敷地)	ポリエステル長繊維・短繊維・工業繊維の製造販売	操業停止(10/16~)
タイ・ナムシリ・ インターテックス社	TNI	チェチェンサオ県 (織工場)	ポリエステル長繊維織物の製造販売	通常操業
		サムットプラカーン県 (染工場)		

(5) タイ洪水被害の影響

	項目	2011年度影響額
営業利益	自社・顧客の操業停止に伴う逸失利益	△10億円
	代替生産に伴うコストアップ	
特別損失	被災した工場の復旧費用 - 保険金	今回未織り込み

- ▶ 営業利益影響は現時点での見積り額であり、復旧時期等により変動
- ▶ 特別損失部分は、今後被災した工場への立ち入りが可能となってから精査



業績の変動が見込まれる場合は、速やかに開示

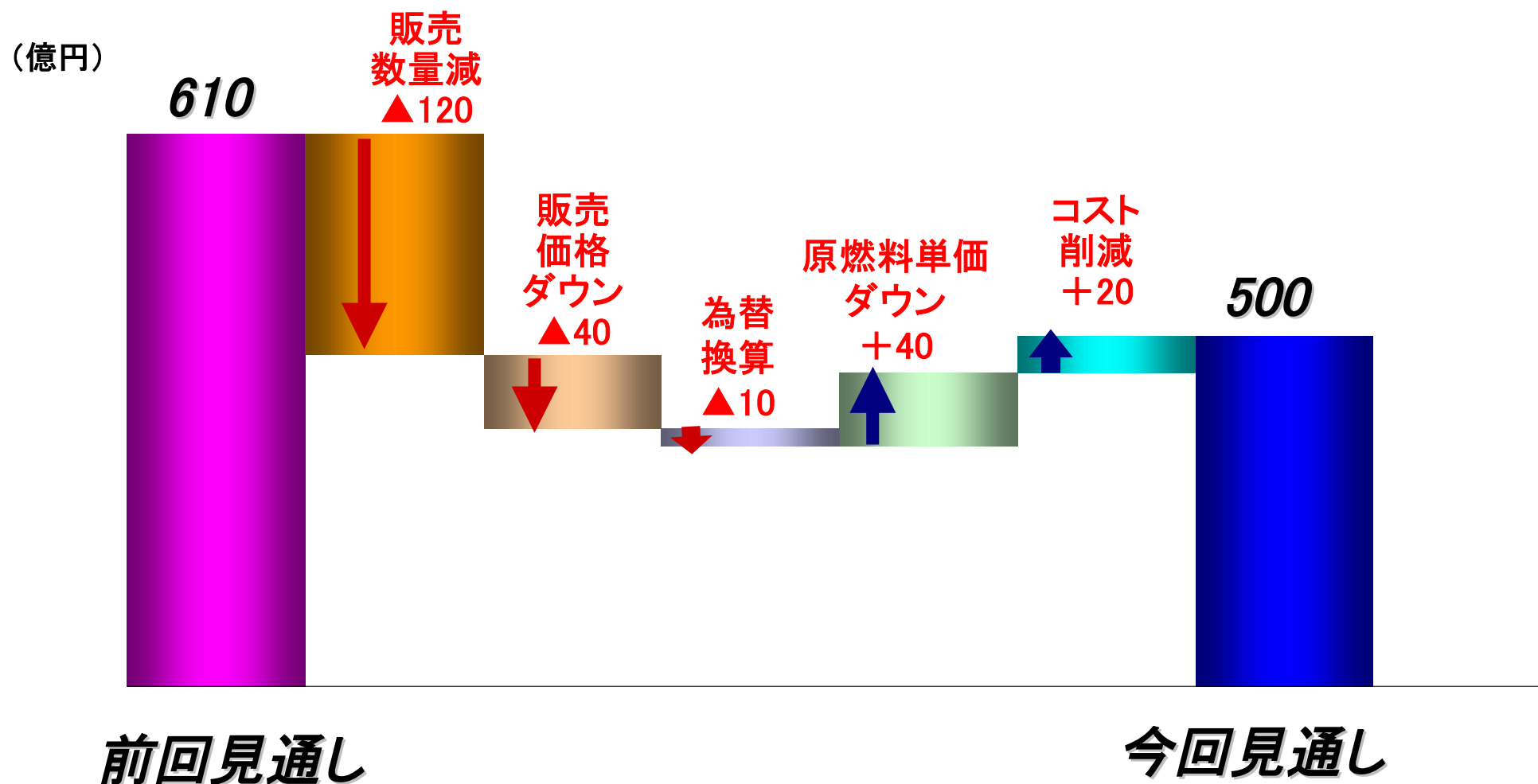
(6) セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

	(億円)	前回見直し					今回見直し				
		上期	下期	計	決算期 統一	年間	上期	下期	計	決算期 統一	年間
売上高	高機能繊維	550	650	1,200	200	1,400	544	556	1,100	200	1,300
	ポリエステル繊維	550	550	1,100	100	1,200	539	561	1,100	100	1,200
	化成品	950	1,100	2,050	400	2,450	930	970	1,900	350	2,250
	医薬医療	700	750	1,450	50	1,500	680	770	1,450	50	1,500
	流通・リテイル	1,000	1,200	2,200	50	2,250	1,054	1,146	2,200	50	2,250
	計	3,750	4,250	8,000	800	8,800	3,747	4,003	7,750	750	8,500
	その他	200	200	400	0	400	189	211	400	0	400
合計	3,950	4,450	8,400	800	9,200	3,936	4,214	8,150	750	8,900	
営業利益	高機能繊維	50	55	105	35	140	42	38	80	35	115
	ポリエステル繊維	15	20	35	5	40	20	15	35	0	35
	化成品	65	105	170	30	200	57	48	105	20	125
	医薬医療	125	155	280	0	280	119	161	280	0	280
	流通・リテイル	20	30	50	0	50	24	26	50	0	50
	計	275	365	640	70	710	262	288	550	55	605
	その他	10	20	30	0	30	11	20	30	0	30
消去又は全社	-65	-65	-130	0	-130	-67	-69	-135	0	-135	
合計	220	320	540	70	610	207	238	445	55	500	

(7) 前回見通しとの差異

- ・市況悪化に伴い、化成品を中心に販売数量ダウン
- ・タイ水害影響については、現時点で想定しうる範囲内で織り込み
- ・短期対策としてコスト削減を強化

営業利益増減 内訳



(8) 主要経営指標

	07年度 実績	08年度 実績	09年度 実績	10年度 実績	11年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	6.5%	1.9%	1.6%	6.1%	6.6%
ROE：当期利益／自己資本 *1	3.3%	-12.3%	-12.4%	9.1%	8.2%
売上高営業利益率	6.3%	1.9%	1.8%	6.0%	5.6%
D/Eレシオ *2	0.83	1.18	1.18	0.94	0.9
自己資本比率	38.5%	35.0%	33.0%	37.3%	39%
1株当たり当期純利益(円)	13.2	-43.7	-36.3	25.6	24.4
1株当たり配当金(円)	8.0	5.0	2.0	5.0	6.0
総資産(億円)	10,160	8,742	8,231	7,615	7,600
有利子負債(億円)	3,252	3,613	3,203	2,674	2,600
EBITDA(億円) *3	1,278	853	753	1,050	1,050
FCF(億円)	-255	-759	470	494	200

*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*3 「営業利益＋減価償却費」にて算出

見通しに関する注意事項と事業等のリスク

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

② 製品の品質にかかもの

医薬医療事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 医薬品の研究開発にかかもの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2011年11月1日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

◆ 連結貸借対照表

(億円)	10年 3月末	10年 6月末	10年 9月末	10年 12月末	11年 3月末	11年 6月末	11年 9月末
資産 合計	8,231	8,055	7,767	7,919	7,615	7,820	7,845
流動資産	3,327	3,315	3,264	3,450	3,369	3,583	3,694
固定資産	4,903	4,741	4,503	4,469	4,246	4,238	4,151
負債・純資産 合計	8,231	8,055	7,767	7,919	7,615	7,820	7,845
負債	5,278	5,098	4,825	4,863	4,538	4,683	4,742
(内 有利子負債)	3,203	3,299	3,059	2,932	2,674	2,846	2,880
純資産	2,953	2,957	2,943	3,056	3,077	3,138	3,103

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

(億円)	10年度				11年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,926	2,073	2,063	2,095	1,896	2,040
売上原価	1,406	1,495	1,454	1,508	1,339	1,479
売上総利益	520	578	608	587	557	561
販管費	440	454	449	466	447	465
営業利益	81	124	159	122	110	96
営業外損益	-3	3	10	8	18	-8
(内 金融収支)	-6	-9	-7	-9	-4	-9
(内 持分法投資損益)	9	17	22	15	26	13
経常利益	78	127	169	129	128	89
特別損益	-11	-2	-5	-40	-1	-19
税前利益	67	125	164	89	127	70
法人税等	24	45	65	28	59	35
少数株主損益	2	5	15	9	5	6
当期純利益	40	75	85	52	63	29

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆営業外損益

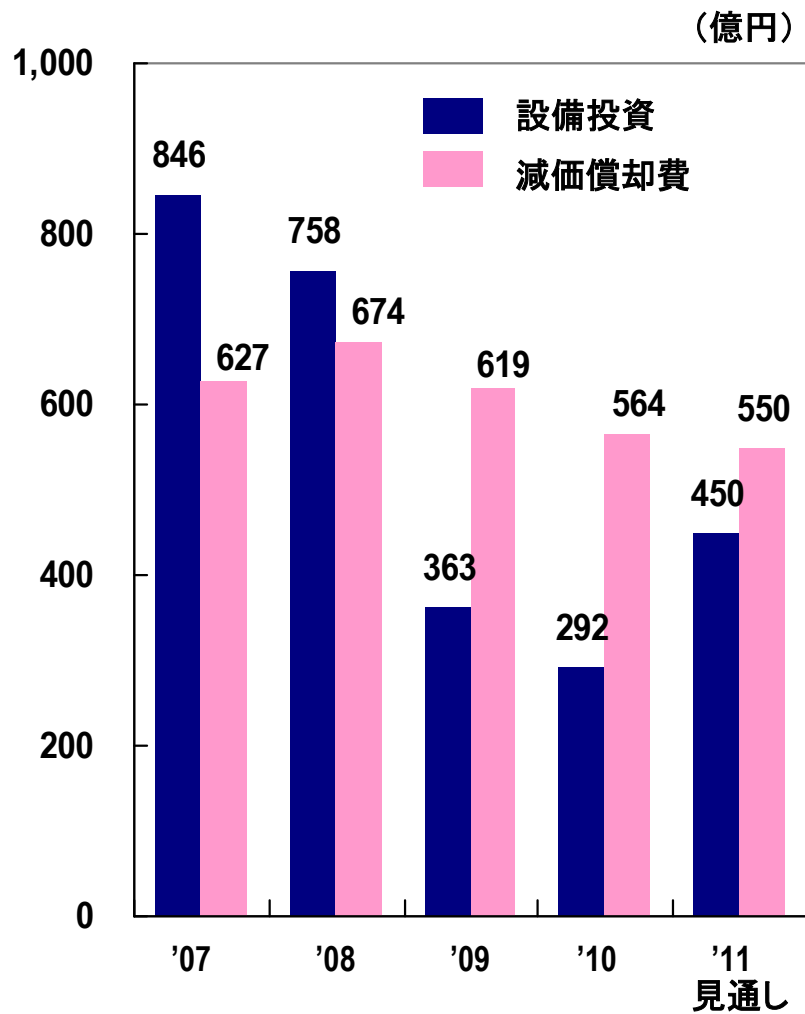
(億円)	10年度 上期	11年度 上期
受取利息	2	3
受取配当金	5	5
持分法による投資利益	26	39
雑収入	4	5
営業外収益 計	37	51
支払利息	23	21
為替差損	3	8
雑損失	12	12
営業外費用 計	37	41
営業外損益 計	-0	10

◆特別損益

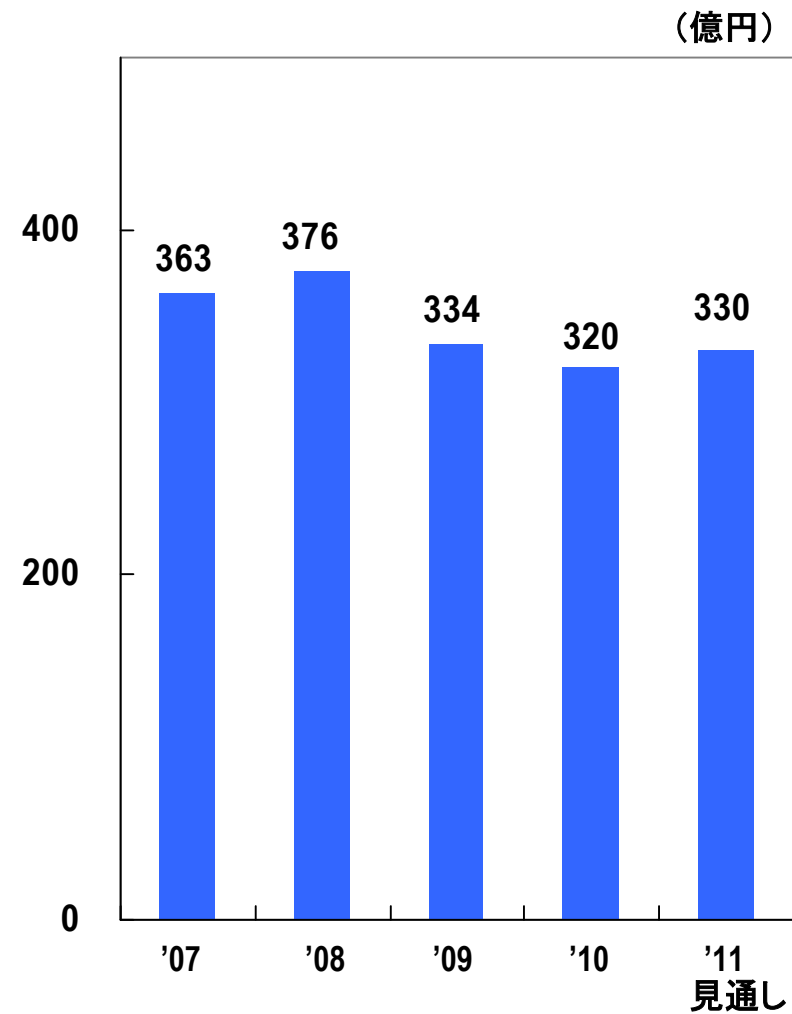
(億円)	10年度 上期	11年度 上期
投資有価証券売却益	12	-
関係会社株式売却益	-	7
その他	3	2
特別利益 計	15	10
固定資産除売却損	2	2
投資有価証券評価損	2	7
減損損失	1	10
事業構造改善費用	10	-
貸倒引当金繰入額	-	4
震災関連費用	-	4
その他	14	3
特別損失 計	28	29
特別損益 計	-13	-20

◆設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費

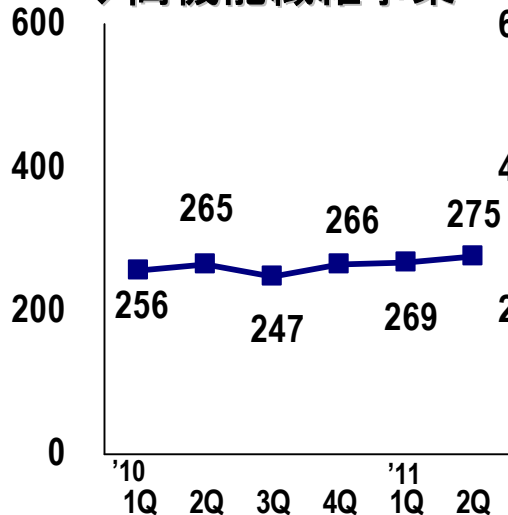


◆セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

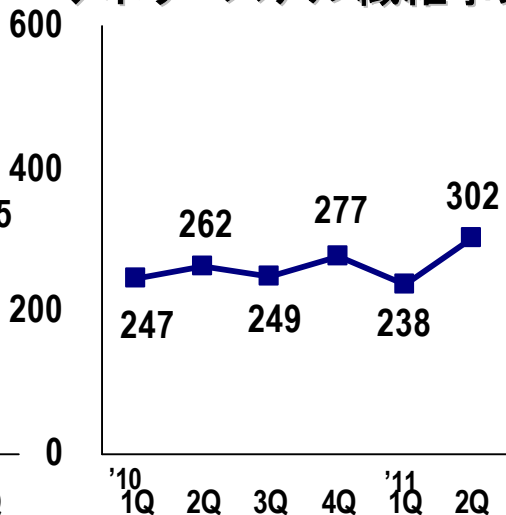
売上高

(億円)

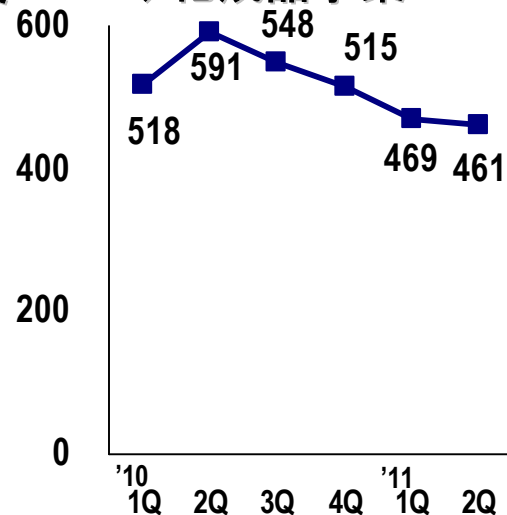
◆高機能繊維事業



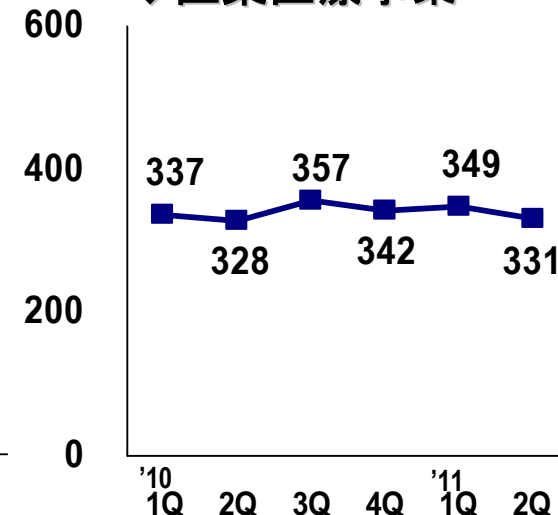
◆ポリエステル繊維事業



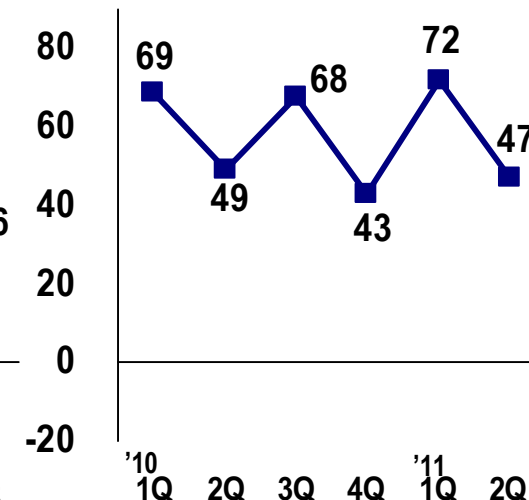
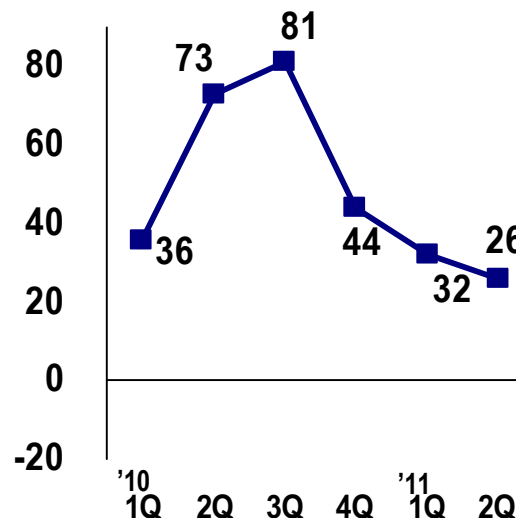
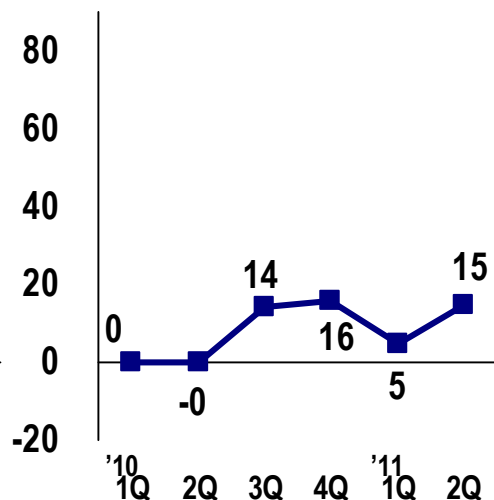
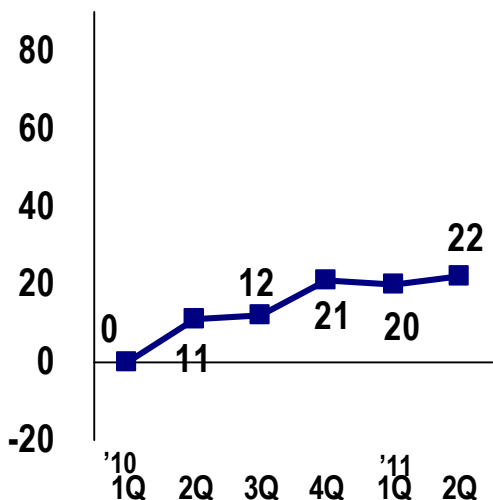
◆化成品事業



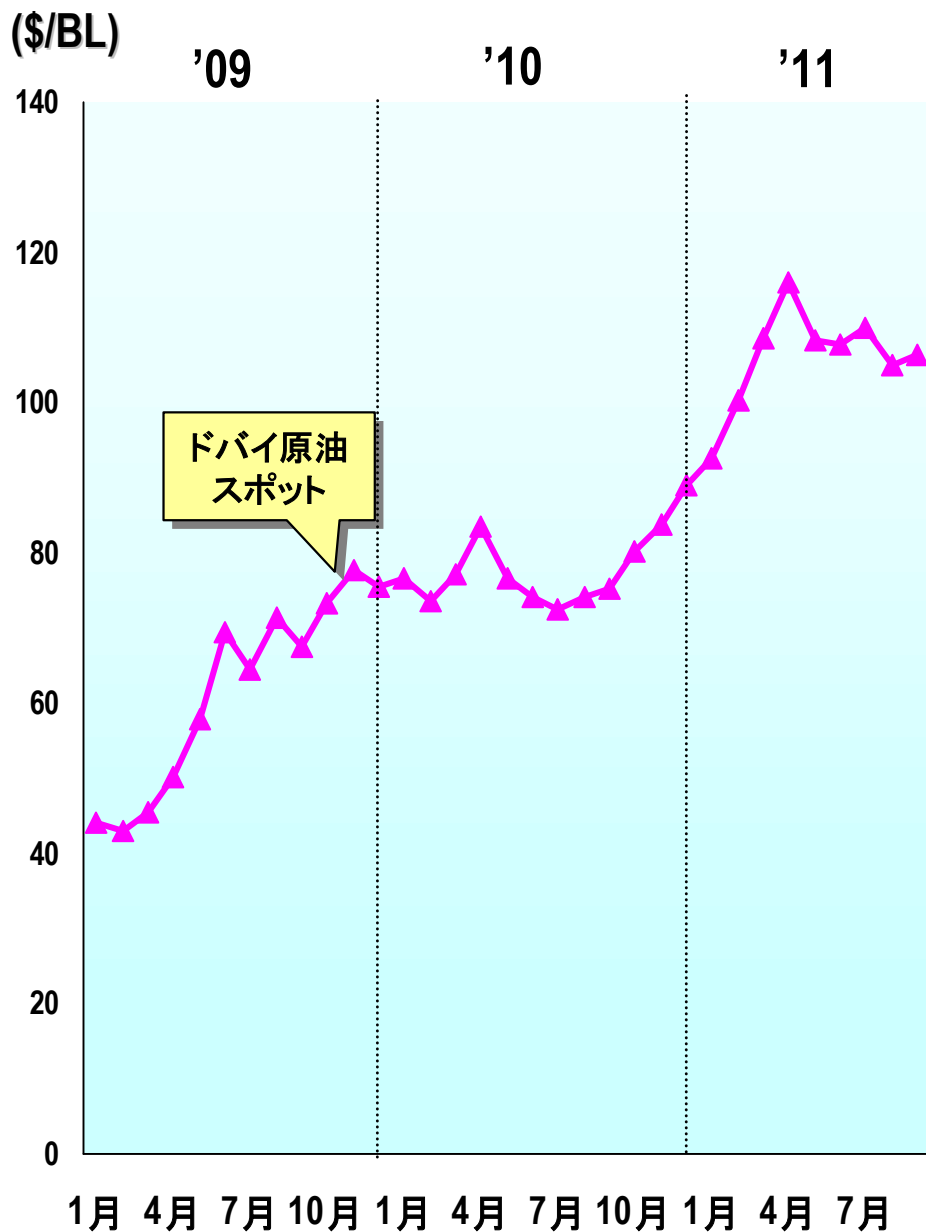
◆医薬医療事業



営業利益

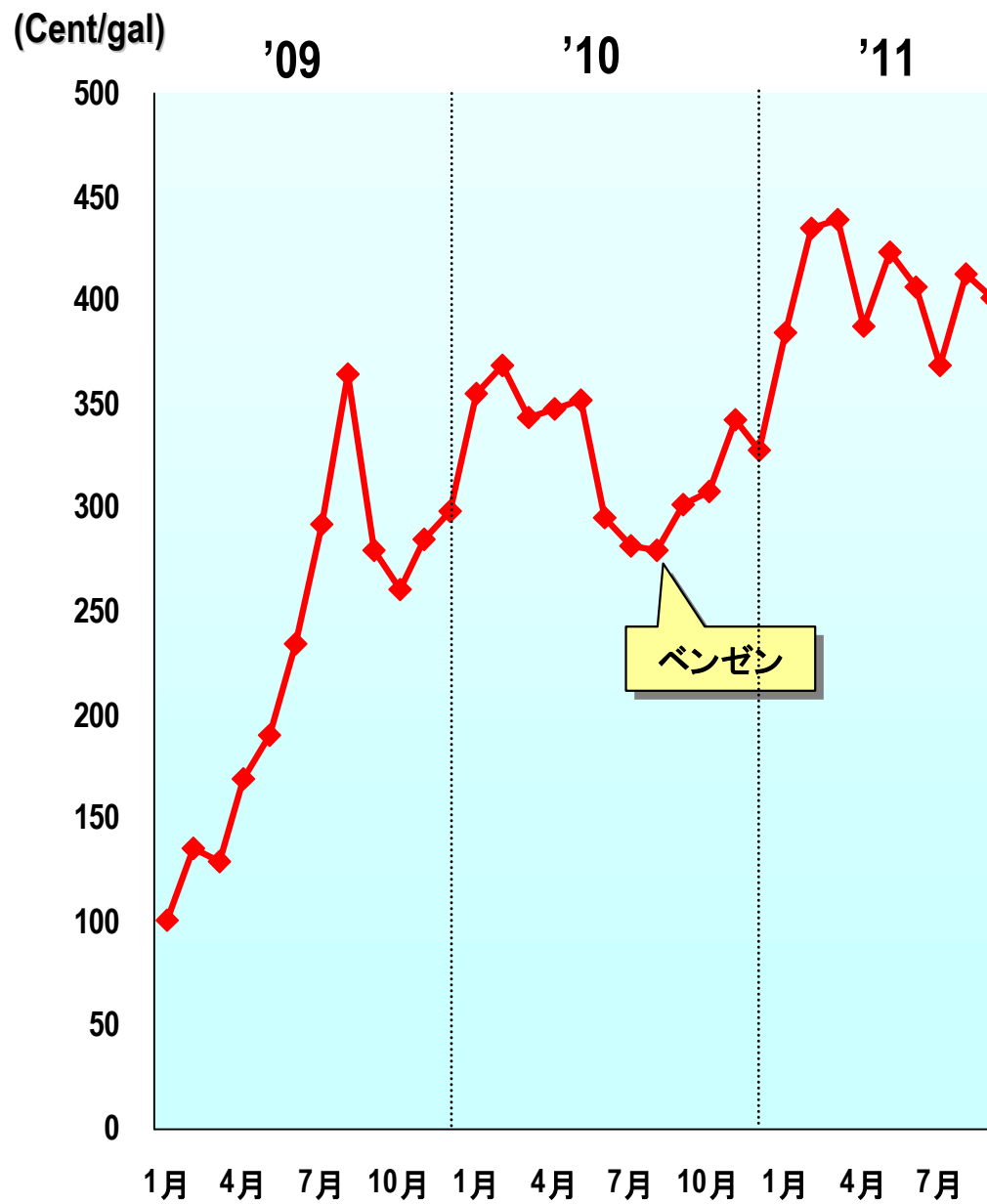


◆ドバイ原油価格推移



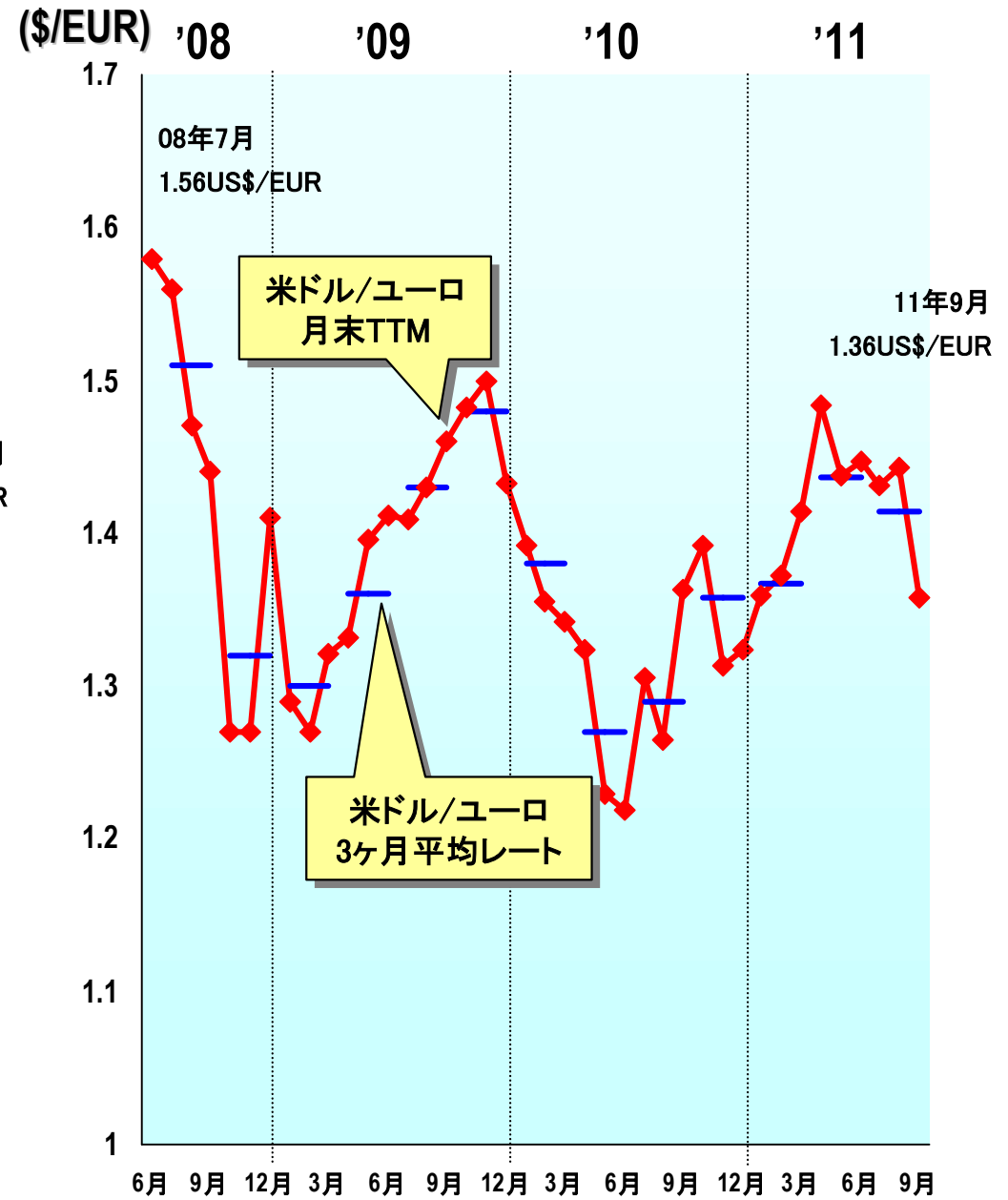
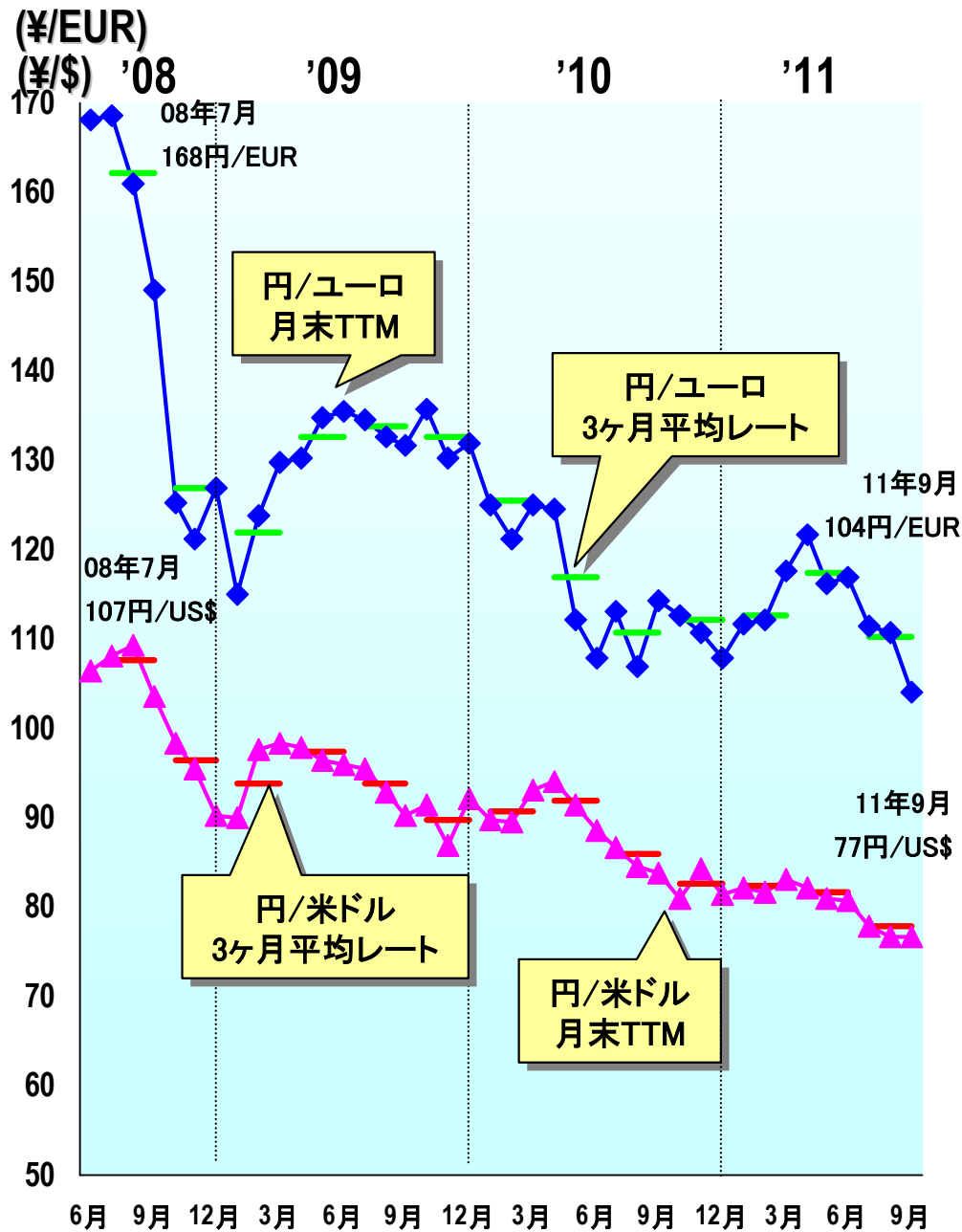
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ベンゼン価格推移

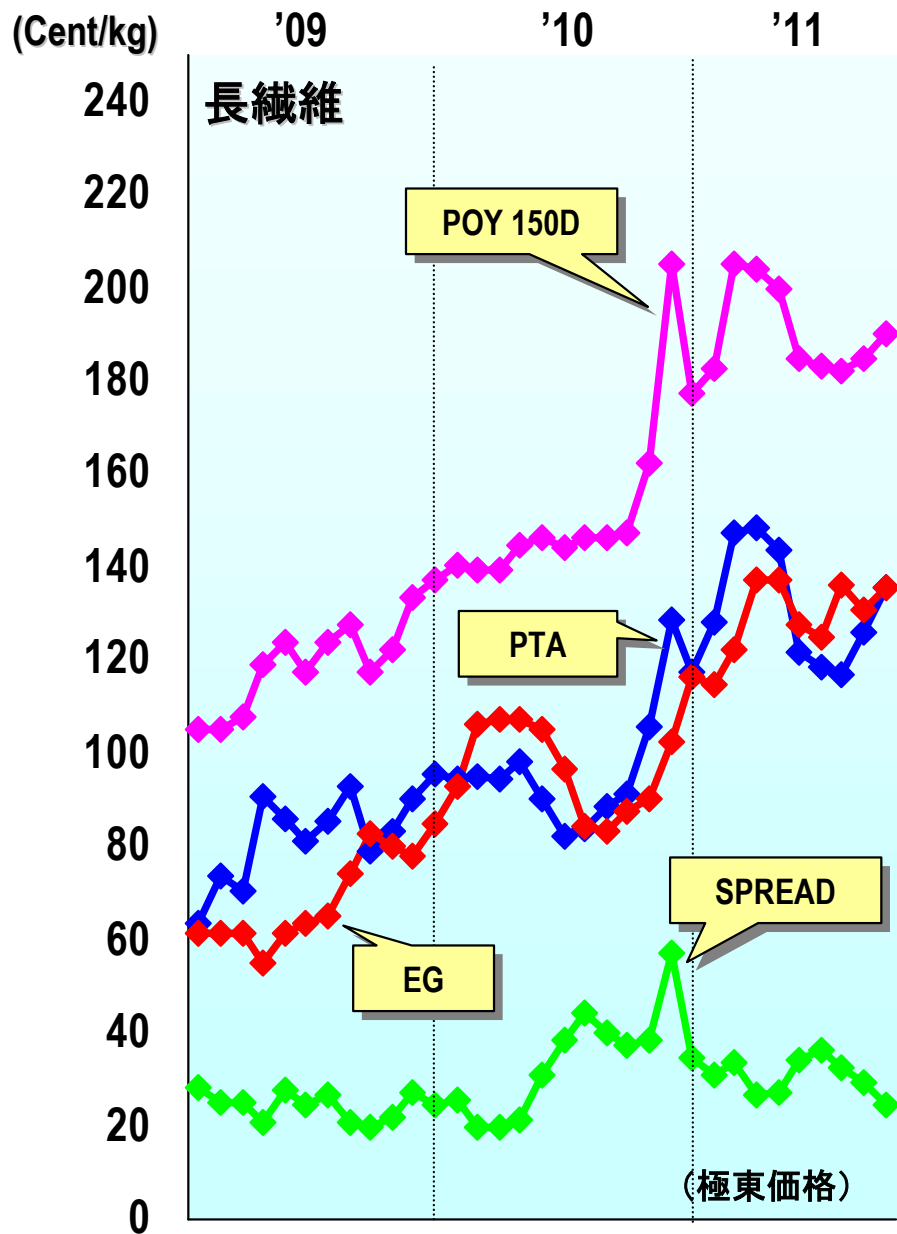


【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

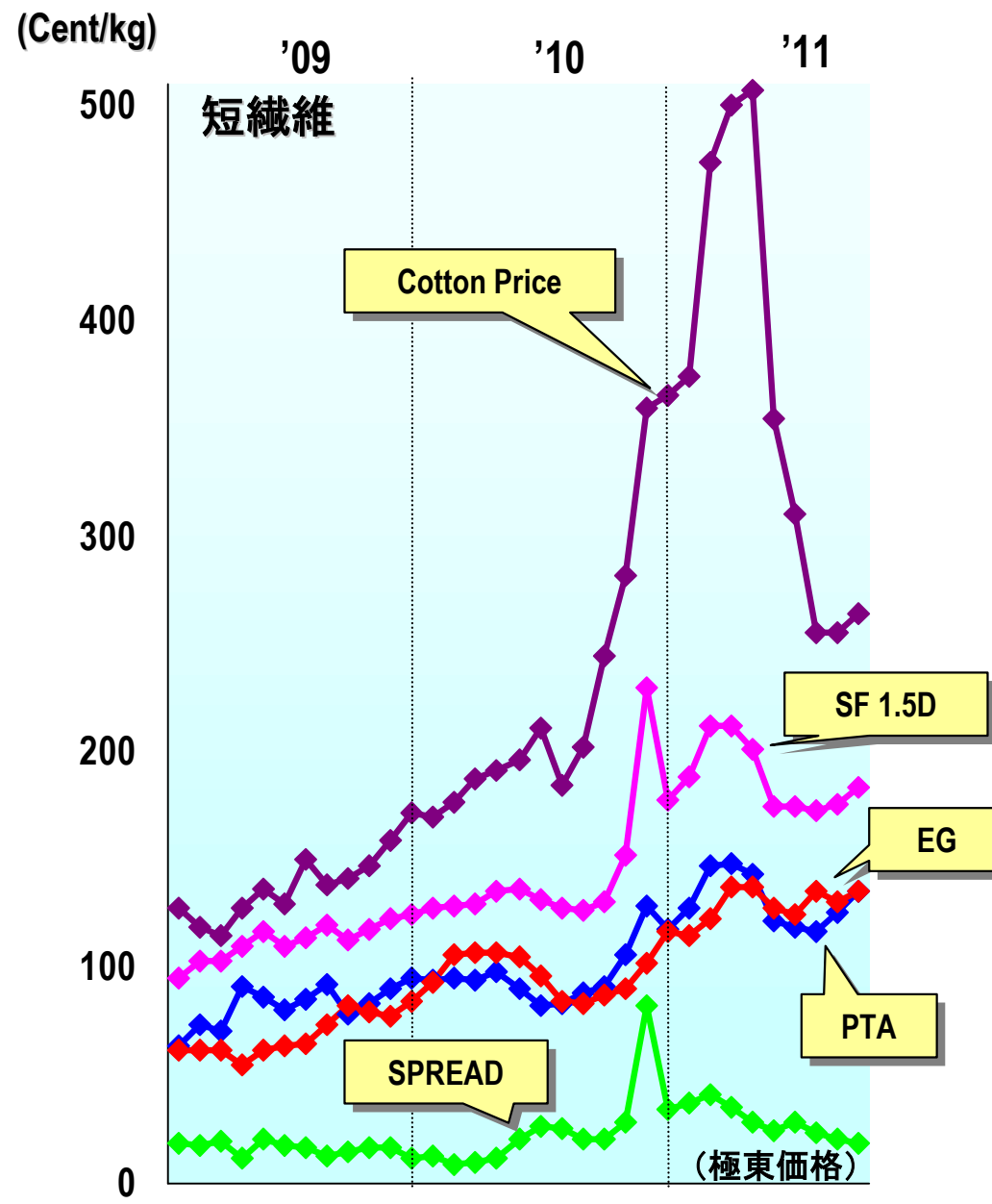
◆円 / 米ドル、円/ユーロ為替レート推移



◆ポリエステル繊維売値・原料価格推移



1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月
【出所:PCIのDATAを基に弊社推定】



1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月

◆主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	適応症	10年度					11年度	
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q
ボナロン*	骨粗鬆症治療剤	52	52	58	48	210	52	52
ワンアルファ	骨粗鬆症治療剤	29	28	31	26	114	27	27
骨粗鬆症治療剤計		81	80	89	73	324	79	79
ムコソルバン	去痰剤	25	21	29	24	100	24	21
ベニロン	重症感染症治療剤	24	23	24	20	91	23	22
ラキソベロン	緩下剤	11	11	12	10	44	10	10
トライコア	高脂血症治療剤	4	4	4	5	18	3	4
ボンアルファ	角化症治療剤	4	4	5	3	16	3	3
オルベスコ	喘息治療剤	3	3	4	3	12	3	3
スピロペント	気管支拡張剤	3	2	3	2	10	2	2
サイビスクディスポ	変形性膝関節症の疼痛緩和剤	-	-	2	5	7	4	4
フェブリク	高尿酸血症治療剤	-	-	-	-	-	5	0

*ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

◆疾患分野別臨床開発段階 (2011年9月末現在)

*承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域	ITM-058			GTH-42V ^{*1} GTH-42J ^{*2} [ボナロン]	
呼吸器 領域	NA872ET ^{*3} [ムコソルバン]				BTR-15K [オルベスコ] (適応追加:小児)
代謝・ 循環器領域		ITM-077 NTC-801		ITM-014 ^{*4}	TMX-67 [フェブリク]
その他		GGs ^{*5} [ベニロン] (適応追加: 顕微鏡的多発血 管炎)	GGs [ベニロン] (適応追加: 多発性硬化症)	TV-02H [ボンアルファ ハイ軟膏] (中国)	

*1 GTH-42Vは2011年2月に承認申請、*2 GTH-42Jは2011年8月に承認申請、*3 NA872ETは2011年9月にPhase I 開始、

*4 ITM-014は2011年9月に承認申請、*5 GGS(ベニロン)は2011年7月に顕微鏡的多発血管炎への適応拡大の臨床開発に着手

◆新規上市医薬品 (2011年9月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
サイビスクディス [®] 関節注2mL (ヒアルロン酸ナトリウム架橋処理ポリマー、ヒアルロン酸ナトリウム架橋処理ポリマービニルスルホン架橋体)	変形性膝関節症	変形性膝関節症の疼痛緩和剤。健常人の関節液中に含まれるヒアルロン酸と同等程度の分子量を有しているため、関節内注入により関節液の機能を一時的に高め、衝撃吸収機能などを改善し、疼痛を緩和する。既存薬剤に比べ、少ない投与回数で効果が長期間持続する。	注射	独占販売権供給元: 米国ジェンザイム 2010年12月14日に国内販売開始
フェブリク (フェブキソスタット)	高尿酸血症	プリン骨格を持たない新しい尿酸生成抑制剤。1日1回服薬で血清尿酸値を治療目標値まで低下させ、維持することが可能。 軽度・中等度の腎機能低下がある場合にも用量調節の必要がなく、多くの患者に使用できると期待される。	錠剤	自社品、2011年1月21日に日本における製造販売承認を取得 2011年5月17日に国内販売開始
オルベスコ 小児用 (シクレソニド)	気管支喘息	既に発売している喘息治療用吸入ステロイド剤(オルベスコ)の小児適用。 小児気管支喘息に対して国内で初めての1日1回の用法。既存の吸入ステロイド剤と同等以上の効力を有し、全身性及び局所性副作用の低減が期待できる。	吸入	導入元: スイス ニコメッド社 2011年1月21日に小児への適応追加の承認を取得 2011年4月7日に国内販売開始

◆新規開発医薬品 (2011年9月末現在)

【申請】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TV-02H (タカルシトール水和物)	尋常性乾癬	国内販売しているボンアルファハイ軟膏 20 μ g/gを中国に導出。既に中国で上市・販売している低濃度製剤(2 μ g/g)に加えることで、当該適応症における治療選択肢の幅を広げることができる。	軟膏	2010年9月低濃度製剤に対する補充申請(中国)
GTH-42V (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)の注射剤。 経口剤を服用できない患者等への処方が可能となり、服薬コンプライアンスの改善や経口剤に比べて上部消化管障害の低減が期待される。	注射	導入:米メルク社 2011年2月承認申請
GTH-42J (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)のゼリー剤。 骨粗鬆症領域の治療薬として世界初のゼリー製剤を目指す。 良好な食道通過性と型崩れしない適度な硬さを有し、錠剤を好まない骨粗鬆症患者に選択肢を提供できるほか、高齢者に取扱いやすいことが期待される。	ゼリー	導入:米メルク社
ITM-014 (ランレオチド酢酸塩)	先端巨大症	先端巨大症における過剰な成長ホルモンの分泌を抑制する薬剤。 徐放性と持続的な薬効発現を可能とする製剤処方とプレフィルドシリンジの採用によって、現行の治療薬と比べて利便性とコンプライアンスの向上が期待される。	注射	導入:仏イプセン社

【Phase III】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGG (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	多発性硬化症	本剤の免疫調節作用で多発性硬化症に伴う神経症状の再発頻度を減少させて患者の長期予後を改善する。 副作用・コンプライアンスの面で既存薬の継続投与が困難な患者の第1選択薬となり得ると期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)

【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-077 (Taspoglutide)	2型糖尿病	血中グルコース濃度に依存したインスリン分泌促進作用による血糖コントロール薬。低血糖リスクが少なく、体重減少作用を有する。 週1回投与が可能であり、利便性に富む。そのほか、インスリンを分泌する膵臓ベータ細胞の保護および再生作用が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社
NTC-801	心房細動・粗動	心房選択的な心房細動・粗動の治療並びに予防薬。 既存薬の問題点である心室性副作用(不整脈誘発作用、心機能抑制作用)が無いことが期待される。	錠剤	共同開発: 日産化学工業
GGG (乾燥スルホ化免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)

【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。 既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社
NA872ET	去痰	既に販売している去痰剤アンブロキシソール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。 ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	錠剤	導入: 独ベーリンガー ・インゲルハイム社

TEIJIN*Human Chemistry, Human Solutions*

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。